

## みえ現場 de 県議会

### 「若者の声を県政に～地方創生と人口減少対策～」実施概要

- 1 日時・場所 平成27年11月11日(水) 17時00分～19時00分  
近畿大学工業高等専門学校 本館2階 大会議室

- 2 テーマ 「若者の声を県政に～地方創生と人口減少対策～」

＜テーマの選定理由＞

本年6月、公職選挙法等の一部を改正する法律が成立しました。この改正で選挙権年齢が引き下げられ、来年7月頃に見込まれる参議院議員通常選挙から、18歳以上の若者も選挙に参加することになる予定です。

そこで、三重県議会では、新たに選挙権を得ることとなる若者に参加していただき、地域の将来の大きな課題である「地方創生と人口減少対策」をテーマに取り上げ、次世代を担う若者から、三重県で暮らし、働くことの課題や、地域を元気にするための提案などの意見を直接聞き、今後の議会の取組に反映するとともに、若者の三重県議会への関心を高めることを目的に、みえ現場 de 県議会を開催しました。

### 3 参加者等

- ・近畿大学工業高等専門学校2～5年生 6人  
(居住地：名張市1人、伊賀市2人、大阪府1人、奈良県2人)
- ・公募の17歳以上20歳未満の県民 7人  
[ 名張高等学校3年生2人、名張西高等学校3年生2人、名張桔梗丘高等学校2年生2人、あけぼの学園高等学校3年生1人  
(居住地：津市1人、名張市3人、伊賀市3人) ]
- ・県議会議員 13人 ○印は広聴広報会議委員  
[ 中村進一議長、○中森博文副議長(広聴広報会議座長)、○森野真治議員(座長職務代理者) ○田中智也議員(戦略企画雇用経済常任委員長)、下野幸助(人口減少対策調査特別委員長) ○長田隆尚議員、○大久保孝栄議員、○石田成生議員、○野口正義議員、○田中祐治議員、○濱井初男議員、○山内道明議員、○中瀬古初美議員 ]
- ・傍聴者等 45人  
[ 県議会議員4人、名張市議会議長・副議長、近畿大学工業高等専門学校長 等 ]

### 4 プログラム

- (1) 開会 挨拶(中村進一議長)
- (2) 趣旨説明
- (3) 自己紹介
- (4) 意見交換
- (5) 閉会 挨拶(中森博文副議長)

## 5 主な意見

### (1) 若者の県内定着促進について

#### 自分たちがまず地域を知ること

- 奈良県からみても、三重県はいいところだと思うので、まずは三重県の良さを三重県民に知ってもらうことが良いのではないかと。周りの県の人に「三重県は何があるの」と聞かれたときに、「三重県はこんなものがある」というふうに、数多くのことを紹介できるような、三重県民の意識から改革できたらと思う。
- 若者が自分の地元を知らないことが多い。調べればたくさんイベントをやっているから、もっとアピールすることが大切。
- 働く若者を増やすには働きたいと思える魅力が必要。魅力は三重県にはもうたくさんあるので新しく作る必要はないと思う。ただ、魅力を知っている人がとても少ないと思う。若者の定着促進には、まず高校生である私達や大学生に詳しく知ってもらう必要があり、私達が三重県の現状を正しく理解し、知識を増やしていくべき。
- 若者が県外に流出する理由のひとつは、若者の都会への憧れが強いこと。県内に大型商業施設を作るというのも案だが、三重県の豊かな自然を生かした、今流行りの古民家を改造したカフェやレトロな雑貨屋など、今あるものを今風にアレンジすればいいかと思う。まず県内の若者が自分の街を好きになってもらうことが重要。
- 小学校で地域のことをもっと積極的に勉強すればよいのではないかと。地域を知れば地元を好きになり、将来大学が県外でも就職するときに三重県に戻ってくるかもしれない。さらには、地域学習を進めることで県内小学生の学力向上にもつながるのではないかと。

#### その地域でしか体験できないことを

- 一人でも多くの人に観光地に足を運んでもらったり、名産品を食べてもらい体感、実感をしてもらうことが大事だと思う。そこで、中高生に県の補助で割引券を配布して足を運んでいただく機会を増やしていく。さらに、県民に特別割引といったふうに、県民を中心にまずサービスを充実していけたらいいかなと思う。
- 東京オリンピックや伊勢志摩サミットで日本に多くの注目が集まる今、三重県にしかない食産物などを日本や世界に発信していくことができる。
- プロ野球などプロスポーツチームが県に所在すること、県内で試合をすることなどで、スポーツを通じた県民が一丸となる意識を持てるかなと思う。

#### 公共交通機関の整備

- 公共交通機関との連携。熊野市から四日市の方に出ると交通費がかかり、電車の本数が1日に数本しかないことを体感したので、県と県内公共交通機関(電車・バス)が連携し、どの地域の人でもより身近に観光地を体感できる取組があれば、三重県民に観光地を満喫してもらえる。
- 県内で学ぶ人が増えると働く人が増えるので、県内いろんな地域に住んでいる人が公平に通えるように公共交通機関と連携を取って政策を。
- 公共交通機関が使いにくく、不便で若者が気軽に外へ出かけて行けない。買い物するところが少ないので大阪へ電車で行ったりすることも多い。名張や伊賀にも若者が行くようなショッピングモールを作してほしい。その際は、公共交通機関で行きやすい工夫が必要。
- 三重県に暮らし続けるために重要なのは暮らしやすい三重だと思う。公共交通機関

の整備や買い物ができる施設の充実が必要。

#### 若者が地元で働くためには

- 三重県には、大学・専門学校が少ない。だから学生、高校生が県外に流れてしまうのではないか。
- まず、学ぶ人を増やす体制を整えること。医療系の専門学校を増やすと、総合病院を増やすことで働く場所が増えると思う。
- 県民に対し、県内の大学・専門学校に通う際に補助金が出れば、県外に下宿して通うより三重県内で親元から通う方が、親にも子にも効率的だと思う。
- 大学や高校の連携の強化。大学や高校が増えれば、様々な教員の方々と大学と連携し、三重県民でビジネスができるような体制ができれば。
- 出て行った学生が戻って来やすいように、例えば補助金や奨学金などの返還制度を緩和するなど、経済面の負担が減ればより多くの人に戻ってきてもらえるのではないか。
- 自分の子どもが進学してほしいような学校を作る。そのような学校が増えれば、必然的に定住する人の数は増えると思う。つまり、教育環境の充実が鍵を握ると思う。
- 若者からみて魅力的な就職先があれば、三重県に残って過ごそうかなと思う学生も多いと思う。
- 魅力的な企業が少ない。若者向けの取組（例：朝食を食べない若者が多いことから朝食バイキングの実施、社内に自由に利用できるフィットネスクラブの設置など）をしている企業がたくさんあるが、三重県にはそういうアピールをしている企業は少ないと感じる。また、産休・育休制度の充実について、そこを女子学生に対してPRできていないのではないか。企業側から若者がアピールしていけば、三重県内に就職し、働く若者も増えるのではないか。
- 県内で就職するために、若者が家を買えるようなサービス（企業と不動産業が連携し会社優待など）やリフォーム費用の補助などにより、若者が三重県内で家を持つことが可能となり、県内定着促進につながるのではないか。
- 働く人が増えると住む人が増える、住む人が増えるには土地の安さがアピールポイント。東京圏内で働くより三重県内で安い土地を買って暮らしている方がいいと思う。
- 若者が三重県に定着するには、都会へ進学した人達が帰ってくるような県にすることが大切。都会の企業に就職する人が多いのは、働く場所が工場しかないこと。ビジネス系の企業やIT企業、サービス業が県内（自分の住む地域）に少ないと思う。そういう企業に就職したいと思う人は都会に住むしかない。
- 英語科には外国と関わっていきたいという学生が多いので、外国人を受け入れるような観光地ができれば、もっと三重県で働きたいと思えるようになると思う。観光客が増えれば労働力の需要が増え、若者の県内定着にもつながるのではないか。
- 総合病院の増加。その土地に永住する人は年を取っていくので、早めに医療体制を整えることが大事。
- 若者が将来が見えやすいような、年齢を重ねても暮らしやすいような環境を整えることが必要。
- 若い世代が働き続けるためには働きやすい職場環境が必要。出産や、育児、介護と仕事の両立ができること。育児休暇を取りやすい環境、支援やサポートを受けやす

い環境づくり、男性も積極的に育児休暇を取得できる環境づくりが大切。

また介護と仕事を両立できるサポートがあれば安心して働ける。

- 豊かな自然に囲まれた地元が好きなので、三重県のいいところを自分で積極的に発見し、多くの人に伝えていきたい。

## (2) 地域の魅力向上について

### SNSで情報発信を

- 地域の良さを知ってもらい、訪れてもらうには積極的なプロモーションが必要。若者に人気のあるTwitterやFacebook、動画PRなどを使って情報発信すること。観光地の最寄駅だけでなく、主要駅にもっとポスターや広告を増やしてアピールすることが必要。
- SNSの拡散性に注目すること。新聞やチラシ、HPなどは拡散性に欠けると思う。紙1枚では拡散しないし、HPは見ようと思わなければ目にすることはないと思う。SNSでは特有の拡散性の高さでフォロワー数以上の人が見ると思う。より多くの人に閲覧してもらうには、簡単だが少し難しいもの、見て楽しいものを作れば必然的に興味がわくと思う。良質なSNSを作ることで、三重県の観光業はより一層発展し、三重県に興味を持っていただいた方が増加すると、三重県の良さをわかってもらって魅力向上によりいいと思う。

### 地域の魅力をPRするための提案

- 自分の住む地域では、ウォーキングやランニングなどスポーツをする人達が多く、健康、スポーツに関心の高い人が年齢を問わず多い印象があるので、スポーツ施設の向上が必要だと思う。例えば、今ある陸上競技場を全天候型にすれば、大きな大会も可能となり、大会を通じて市外、県外の人々が名張市を知るきっかけになると思う。
- 観光地を軸としたスポーツイベントを増やせばプロモーションにもなり、イベントを盛り上げることで認知度も高まり、みえ国体に向けても勢いがつくのではないかな。
- 地域の魅力を発信する方法として、伊勢志摩サミットや東京オリンピック開催時にうまくPRできればと思う。
- 地域の特産品をPRする1つの方法として、ふるさと納税の特典でPRしてはどうか。伊賀市と名張市の特産品は同じような感じなので、メディアに取り上げられるような大きな特徴があれば、地域の活性化にもつながると思う。
- 若者がまちにただたくさんいるだけではなく、若者がまち・地域での地域活動や観光PR活動をしている姿があった方が、活気あるまちや地域になるのではないかな。
- 若者が観光ガイドのボランティアや地元ラジオを使って観光の魅力について発信をする。要するに、自分たちのような学生や若者が地域活動を積極的にしていくことで、まちや地域に活気がでてくるのではないかな。
- 高校の洋菓子実習で学んだ生徒が、近くの小学校の生徒と一緒にお菓子を作るという出前授業の取り組みのおかげで、学んだことを教える経験を通じて自信もつき、地域の交流を深めることもできたので、このように高校生が地域の方とたくさん交流できる機会を作っていけたら、地域の魅力向上に少しでもつながるのではないかなと思う。
- 伊賀、名張の観光地を回る共同観光企画を計画してはどうか。ツアーとして二つの

地域を回ってもらうことで、伊賀の上野城や伊賀忍者、だんじりなどの歴史的観光資源と、名張の赤目四十八滝や青連寺湖などの自然豊かな観光資源の両方を楽しんでもらい、盛り上げていけば、地域の魅力向上にいいのではないか。そして、こうしたツアーを三重県全体に広げ、1泊2日で三重の観光地をまわるツアー企画があれば、県全体の観光地としての魅力を県外に広げたり、各地で自分の地域の魅力について考え直したり、魅力向上に努めるきっかけにつながると思う。

- 地元伊賀市や、名張、熊野、伊勢にもたくさん魅力があるが、どの観光地においても観光客は年配の方が多いと感じる。この長所を保持しつつ、若者の観光客増加を図るには、興味や関心をもってもらうことが必要。三重県での最近の成功例をあげると、伊賀や伊勢志摩で制作されたキャラクターにより、三重県の知名度は大分上がったのではないかと思う。
- 忍者は海外でも通用するので、海外の人が行きたいなと思うように、例えば忍者フェスタを名張市とも連携し、多種多様なイベントを観光名所と絡めてPRできれば面白いと思う。
- 伊賀市は、大阪、京都がまわりにあるので、海外の人達にとって宿泊場所という考えではなく、通過地点になっているのではないか。インバウンド消費につなげるために、海外の方が宿泊したいと思うような施設をつくれればいいと思う。例えば、施設内すべてを忍者をイメージしたものにし、温泉のお湯を黒に近い色にしたり、浴衣も忍者の服にした、テーマパークのような旅館があればと考えた。
- 住んでいる名張市は住みやすく、まちに魅力を感じる。自然が多く、空気もきれいで治安や環境も良い。近所づきあいもあり、若者にとっても安心して暮らすことができるのでとても魅力的。三重県全体で考えても住みやすいまちが多いイメージだが、何回も訪れたいという魅力には欠けると思う。
- そこでしか見られないもの、そこでしか食べられないもの、買えないものなど地域限定のものが必要だと思う。観光地だけでなくグルメやおみやげなどをプラスして魅力あふれるまちづくりをすることが大切。
- 伊勢や志摩は、伊勢神宮やおかげ横町があり、名物がたくさんある。どうしてここに人が集まるのか考えた時、そこでしか食べられないもの、買えないものがあることが必要だと気付いた。三重県全体に訪問客を増やすには地域限定の魅力が大切。
- 伊賀市の外国の方に人気の忍者屋敷があり、名張にはへこきまんじゅうなど若者にも人気の食べ物があり、もっとPRすることで、知っている人にはもっと興味をもってもらえるし、知らない人には地域を知ってもらい、訪れる人が増えて地域活性化につながる。ここにしかないものを発見することが大事だと思う。
- 伊賀では忍者のほか、花火大会や天神祭、県内でも鳥羽水族館、志摩スペイン村、長島スパランド、鈴鹿サーキットなど、たくさんのスポットや特産物が多くあるので、新しいものを作り出していくよりは、今その地域にしかないもの、その地域でしかできないことをより伸ばしていくことが必要だと思う。

#### **公共交通機関を利用しやすく**

- 伊賀鉄道は観光客には人気だが、通勤通学している身からは不便なところもあるので、地域住民にも便利と思えるようにしないと観光客もより来ないと思う。三重県全体の交通をよくすることが地域の魅力向上にもつながると思う。
- 名張に住んでいても伊賀のことをあまり知らないのは、鉄道料金が高く、学生にと

って不便で気軽に行けないから。イベントがある時だけでも学生料金など作ってくれたら鉄道を利用しやすくなると感じる。

## 6 会場アンケートで寄せられた意見、感想など（参加者、傍聴者）

### 【会議の感想】

- 伊勢志摩サミットで、学生によるスタッフを立てたらよいのではないのでしょうか。
- 自分が気づいていないところもあり、改めて三重の魅力に気づいたところがたくさんあり、自分にとってもとても有意義な時間になった。
- 自分が考えた意見とは違う視点で意見を聞いたのでおもしろかったです。
- 意見としてはよく聞く話であった。なぜ出来ないのか考える必要がある。
- 興味深い意見がたくさんあった。参加させていただいてありがとうございました。
- 三重県について様々な意見交流ができてよかった。三重県議会の人々と関わることで身近に感じ、行政に対する興味が深まった。
- 同じ世代の人達がどう思っているかを共有できるいい機会になったので、非常に良かった。自分の意見が反映されるということだったので、とても刺激になり良かったです。
- 「若者の声を県政に」ということですが、SNSの活用でより聞けるのではないかと思います。
- 貴重な場で発言することができて良かったです。少しでも若者目線として、意見を参考にしていただけたらうれしいです。
- 色々な意見が聞けてこの場に来てよかったと思いました。
- 高校生の本音が県議会の方々に伝わって、すぐ反応が返ってくることが良かったです。直接話せてレスポンスが早いことがこの会議の魅力だと思いました。
- 高校生の多様な考え方を聞く機会として十分な会だったと思います。今ある魅力を知っていきたいと思いました。時間通りの開始ができたらと思います。
- 学生全員が前もって十分調査し、相当準備して発表しているのに感動する。ぜひこれらの学生の意見を無駄にしないよう期待する。
- 子どもたちがしっかり日常の生活を見つけていた。
- 高専生、高校生の生の声、真剣味。交通網、商業地、労働場所、観光地、県内の魅力アップと特徴がある三重を！県議の皆様宜しく。
- 高校生の正直な意見を聞くことができた点が良かった。人数が多く、意見を交換する時間が少なくなってしまったのが少し残念だった。高校生同士の意見交換もあると良いと感じた。
- 「若者の声を県政に」がパフォーマンスでなく、次につながる会議となって欲しいです。
- 学生の皆さんがとても真剣に考えて下さっている事を知って安心すると同時に、今の政治、特に地方においての問題点を改めて教えられるような気がした。

### 【みえ現場 de 県議会の在り方】

- 学生をサミットに連れていく企画などはどうでしょうか。
- 次は、より若い人達の話聞いてみることも大切であると思います。
- サミットでこのような県議会をして若者から意見をもらったと発表してもいいかと

思ったりします。サミットに「へこきまんじゅう」を出していただいて名張、伊賀を知ってもらいたいです。

- 今後もこのような取組を増やして行ってほしいです。
- 数多く、様々な場所で開くことが大事だと思います。
- もう少し質疑応答ができるとうよかったと思います。
- 県内各地で開催し、議員の皆様の認識を拡大させる。多忙の中大変でしょうが、現場の声を県政に生かしていただきたい。
- 三重県の知名度をアップして欲しいと思います。宜しくお願いいたします。
- 少し時間が足りなかったのもう少し時期を考えて（長期休暇時など）県内のいろいろな地域でやってもらえると良いと思う。
- 今回は伊賀地域だったので、伊賀地域選出の県会議員、市議、町議等、会派やいろんな問題があるとしたらそれは別として、貴重な意見の聞ける場として、全員参加すればいいなと思いました。